

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100675		
法人名	株式会社在宅支援センターふれあい		
事業所名	グループホームふれあい奄美(2ユニット共通)		
所在地	沼津市下香貫楊原550-4		
自己評価作成日	令和5年 3月 4日	評価結果市町村受理日	令和5年 3月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和5年 3月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の中外出が出来ていませんが、施設内で季節を感じて頂けるよう、毎月季節ごとの掲示物の作成で季節感を味わって頂いている。調理レク活動は、利用者様の「これが食べたいね」の言葉を聞き逃さず作りましょうか？と一緒に調理レクに結び付けています。他に季節を感じて頂けるよう毎月の季節に合わせたお楽しみ食事提供を実施している。ご利用者様の誕生日は誕生日当日に実施、当日に合わせご希望を伺い昼食おやつでの提供を心がけ実施している。大家様の心使いでフェンスにツルを巻き付けて下さり「ゴーヤ・トマト・にどなり」等、季節野菜の収穫を楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念「敬愛 創造 貢献」をもとに、事業所理念「そっと寄り添い 共に生きる」を掲げている。今年度は、「業務の標準化と働きやすさの構築」を事業所目標として取り組んでいる。名刺サイズの「サンクスカード」にコメントを記入し、職員同士が日頃の感謝の気持ちを伝え合っている。その効果として、信頼関係が深まり働きやすさにつながっている。その都度注意できる環境を整えることで、職員の利用者への声掛けに改善が見られており、「ちょっと待って」にフォローの言葉を加えることが定着してきている。記録においても、利用者を敬う気持ちが言葉や表現に現れるようになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内玄関に、グループ理念・運営理念を掲示している。「そっと寄り添い共に生きる・仕事の約束5カ条・介護の約束5カ条」を朝の申し送り時に唱和している。新人職員にはオリエンテーションを実施し内容の説明を行っている。	運営理念に基づいた約束事の中から、一つ目標を決めて、日々取り組んでいる。フロア会議で支援内容や業務の効率について振り返り、全体会議で目標に関する進捗状況等を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で外出が出来ない日々が続いていますが、大家様の畑にお邪魔し野菜の収穫を体験させて頂いています。	地域や近隣との交流が減っているが、大家(建物オーナー)との交流は、変わることなく安定している。利用者のことを気にかけてくれるオーナーは、自家栽培の野菜を分けてくれたり、収穫のお手伝いをさせてくれるなど、事業所にとって心強い存在である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や認知症カフェはコロナにより中止となっていますが、近隣の方が飛び込みで相談に来られることがあり、その都度相談にのっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の資料については、担当地域包括支援センターへFAXを送信して、内容確認をして頂きコメントを頂きます。その後沼津市へ提出します。ヒヤリハット報告書を全体会議で読み合わせを行い支援に役立てている。	地域関係者が参集しての会議は未だ開催できていないが、2か月毎に書面で報告を行っている。毎回、ヒヤリハットを詳細に報告することで、定期的な振り返りとなり、職員の観察力が高まっている。同時に業務の標準化にも繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の為、書面のみ南部会議へ資料提出を行い、困りごと等の意見交換を行っている。	運営推進会議議事録は、市担当課窓口に直接届けている。市グループホーム協議会はメールで交流しているが、意見交換等により有益な情報収集の機会となっている。定期的に地域関係各所に出向いて情報誌を配布するなど、関係継続に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1度身体拘束廃止委員会の研修を実施しています。身体拘束マニュアルのアンケート実施、事例報告、前回の振り返りを実施しています。散歩希望の利用者様については駐車場内ですが散歩できる環境を整えている。	委員会において、利用者に対する呼称や言葉遣い、また、スピーチロックや態度について、評価と分析を行っている。課題について、具体的な対策を決めて改善に努めている。「ちょっと待って」にフォローの言葉を加えることが定着してきている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	ふれあいグループでズームによる研修参加後、全体会議で資料を見ながらの研修実施している。定期的なアンケート実施と、振り返りを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターや外部研修で学び、利用者様本位の支援が出来るよう、支援についての意見交換の場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前・退去時等丁寧に説明を行っている。特に入居前は、面談訪問時より利用者様、家族との信頼関係の構築の為、情報収集を行い安心して頂けるよう努めています。改定があった時には本部よりお知らせとしてご家族に伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内容の大小に関わらず記録に残し、朝夕の申し送り時で職員間での共有が出来ることで、早めの対応に繋がっています。ご要望については記載用紙を利用している。	年度末に「利用者満足度アンケート」実施し、本人に直接話を聞いている。法人全体で集計を行い、結果を職員全員に周知し、支援に反映させている。家族からは、面会に関する要望が多いが、制限せざるを得ない理由を丁寧に説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議・全体会議での進行をリーダーが行なっている。職員主導で行い発言しやすい環境が出来ている。個々の研修記録提出後、コメント記入しフィードバックを行っている。	職員全員の目標管理の面談は、管理者が定期的に行っている。日常的な相談や提案等はその都度対応し、内容によっては全体会議で話し合い、支援に反映させている。事業所内会等の記録には、職員の今後の取り組みに対して、管理職員のコメントが記入されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談や話を聞く時間作りや言葉かけを行っている。キャリアパスを取り入れ個々のスキルアップ・やりがいを持てる職場環境作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ふれあいグループの研修や外部研修へ参加ができるようシフト調整を行っている。施設内外の案内を行い参加希望を募っている。研修参加後には施設内会議でのフィードバックを行い意見交換を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内南部GH会議へは資料提出を行い他施設との情報共有を行っている。月1度施設内情報誌等を作成し、包括・居宅・同業者への配布を行い情報の共有を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活歴を大切に理解を深めることが出来るよう、ご本人様だけではなく、ご家族様、関わりのあった方々からも広く情報収集を行っている。ご本人の思いに寄り添い傾聴し信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様側の様々な不安等に対応できるよう、会話を大切に疑問不安などを傾聴し必要に応じて多職種での意見交換、個々の分野で助言等で関りフォロー出来るよう努めてる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様の要望に対して優先順位を正しく把握し、迅速かつ適正なサービス導入に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の生活歴や個性を理解したうえで尊重し、出来る力の継続を大切に不十分・不安な部分の支援を行っています。身体的に支援が多い方との会話を大切に経験や知識を伺いできる力を引き出せるような言葉かけに努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時・ケアプラン更新前にご家族様からのご要望を伺い近況報告を伝わりやすい言葉を心掛け表現しお伝えしている。状況変化時はまめな報告ご要望を伺い支援に繋げています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な友達・ご家族からの電話の取次ぎを継続し支援している。はがきや手紙についても一緒に読む等継続し支援を行っている。	2年前に窓越しで15分としていた面会は、現在、玄関先で行うまでに好転している。今後、さらに外に近い場所で行うことを検討している。1～2か月毎の訪問理美容では、馴染みの美容師と和やかに会話をする利用者の姿が確認されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や生活歴に加え、現在の体調や精神状態等を総合的に考え利用者様同時の関係性がバランスよく保たれるよう座席等配慮を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先への情報提供や必要に応じてご家族様へのサポートや関係機関との情報交換等支援継続を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活でのご要望には可能な限り希望に沿うことが出来るよう努めている。困難な場合でも日常生活での会話・表現・行動を職員間で共有し希望に近い支援を検討し支援を行っている。少しの会話内容で支援に繋がるよう傾聴を大切にしよう努めている。	「利用者満足度アンケート」を実施する際には、丁寧に聞き取り、思いを引き出している。意外な本人の思いを把握する良い機会である。各フロアで9人が座る場面で、ポロっと落とした言葉を拾い、行動観察を行う中で、仕草から気持ちを察している。些細なことも記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前のご本人ご家族様から生活歴や生活環境等の情報提供を頂く際は、出来るだけ詳細に説明頂けるよう協力頂いています。又、入居時の手伝いを積極的に行い、会話による情報収集にも努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの食事・排泄・睡眠を観察し特変時には医療機関への相談・ご家族様への状況報告を行っている。情報の共有として時系列に記録を残し全員が情報把握できるよう努めている。又、入居直後は生活状況把握の為24Hシートを活用、小さな変化にも気づくことが出来るよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に適した支援を行うため、ご本人・ご家族様や医療機関との連携を取り、職員の気づきを大切に多角的な検討を行いケアプランの評価見直しを行っている。プラン作成前にご要望ご意向を面会時や電話にて伺っています。	担当者会議で介護計画のチェックを行い、毎月10日前後のフロア会議で次月のプランを検討して介護計画に反映させている。介護計画は、職員全員に周知し、必要な時にiPadで確認している。必要に応じて医師の判断を仰ぎ、本人や家族の意向を取り入れ、同意を得て実行している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアバレットの申し送り事項入力で見ても状況を把握できるわかりやすい事用語を用いるようにしている。特記事項は、朝夕の申し送りでの情報の引継ぎ共有を行い、実践に繋げている。気づき表・申し送りへの記入により利用者様の変化等共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安心した日常を過ごして頂くための支援サービスを常に模索し、一人ひとりその時々出会った支援サービスが出来るよう取り組んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に訪問理美容を利用し清潔で気持ちの良い生活を送って頂けるよう支援を行っている。駐車場散歩等で気軽に声をかけて下さる環境がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には医療連携の説明実施、専門医受診等ご希望に沿った医療を受けられるよう、支援を行っています。又、医療連携医による月2回の医療訪問へ情報共有・ご家族様への報告。特変時には医療連携医やご家族様へ適切な対応病院対応の送迎等支援します。	協力医が利用者全員のかかりつけ医で、月2回の定期往診には看護師も同行している。週2回程度の法人看護師の巡回では、主に巻き爪や白癬などのチェックがされている。歯科往診もあり、月4回のブラッシングと磨き方の指導も受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携先看護師・施設巡回看護師への情報提供、相談等直接の連絡先へ連絡、連携医の指示や往診等の対応相談をさせて頂くツールがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関と連携し情報交換共有を行いご家族様へ連絡説明を行っています。コロナ禍により入院先への出入りの制限がある中、定期的な電話を行い情報を頂き退院に備えます退院後についても安心して治療継続できるよう情報収集の支援を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時にも重度化した時お看取りの指針を基に、施設でできること出来ないことの説明を行い、「生前の意向確認書」へ記入して頂きます。身体状態等の低下が顕著に表れてきた時には、医療連携医・看護師・施設巡回看護師・ご家族・ご本人を含め話し合いの場を設け、今後の方針・関わり・お看取りのケアプランを作成し支援に取り組んでいる。	入所時に、法人の看取りに関する指針を説明し、本人(または家族)の同意を得ている。看取り期となった段階で、改めて意向を確認している。面会は家族の要望に応え、宿泊に備えて簡易ベッドも用意されている。本人や家族、また職員にとって後悔のないように、最期まで寄り添っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応・事故発生時の対応についてはフロー作成し、定期的に会議を利用し研修を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中夜間想定の方針訓練を消防署職員立ち合いのもと実施している。風水害想定の方針訓練を実施している。	ハザードマップの対象地域ではないが、様々な災害を想定した訓練を実施している。活動報告により、117伝言ダイヤル掲示板訓練を数カ月かけて実施していることが確認されている。法人の全事業所にAEDが完備されている。管理者不在時の権限は、リーダーに委任されている。	夜間における、地域や職員との協力体制を万全にしておくことが望ましい。また、断水や停電を想定して、生活用水や蓄電池(モバイルバッテリー含む)など、予め用意すべき備蓄について再確認することが期待される。

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の生活歴・性格等を把握し、それぞれの思いや気持ちを尊重し会話をゆっくり共感傾聴できる時間作りを行っています。	事業所独自のルールとして、声かけを「言葉かけ」、誘導を「ご案内」と言い換えて統一している。呼称はさん付けで、苗字が同じ場合にはフルネームで呼んでいる。「認知症研修」を継続して行い、特徴や病状について学び、適切な接し方を学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話を大切にし、日ごろの何気ない言葉からくみ取ることが出来るよう寄り添いの支援言葉かけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れの枠にとらわれず、安静時間や、余暇の過ごし方等、穏やかに落ち着いた生活をして頂く支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望により、訪問理容への連絡を行い利用して頂いています。入浴準備の際には、一緒に好みの服を選んでいただくよう言葉かけを行います。身なりに興味を持っていただけるよう、シェーパーの充電準備言葉かけ見守り支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	湯煎食材を使用していますが、大家様より沢山の野菜を頂き昼食変更でお好み焼き屋焼きそば等に変更する事も有る。食後の食器拭き等の片付けの言葉かけと感謝の言葉をその都度お伝えしています。	恵方巻やどら焼きなど、手作りの行事食やおやつのパリエーションが充実していることは、ブログで確認されている。オーナが栽培した野菜を青物としてメニューに加え、彩りを添えている。食事は、味にこだわり、目でも楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取で10時のお茶の時間には好みのコーヒー等提供する等工夫をしています。食事量の減少については医療連携先への相談やご家族様への報告。好物等の情報収集や形状変更などご本人に合った支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、その方の状況に応じた支援を行い、夜間帯は義歯をお預かり洗浄している。月2回の歯科往診があり、磨き方や疑問点については質問しやすい環境となっている。歯科医の指示のもと、月4回のブラッシング実施、磨き方等の指導を受ける機会があります。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を目安にはしますが、利用者様の動き等に合わせて、トイレでの排泄が継続できるようご案内支援を行っています。	個々の排泄サインを見逃さずに、トイレとわからないような「言葉かけ」と、さりげない「ご案内」を徹底している。失禁予防として、24時間シートで時間を把握し、2時間でパットを交換する等の処置を行っている。適切なパットに変更する場合は、家族に説明し許可を得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖・オリーブオイルを汁物で摂取して頂いています。起床時の乳製品の提供や午前のレク活動の体操で体を動かして頂けるよう参加の促しを行っています。廊下歩行運動も積極的に取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員が都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴予定表はあるが、当日の希望や体調等により変動ありでのご支援を行っています。又、体調に考慮し入浴が困難な利用者様は、清潔保持の為、清拭・足浴等へ変更し支援を行っています。	全員が週2回入浴している。皮膚疾患に配慮して、入浴剤は使用しないが、ゆず湯などの季節湯は行っている。柑橘系の刺激により、ゆず湯を「電気のお風呂」と表現された人がある。刺激が発語を促した事例である。転倒予防として、動きに合わせた動線を確認し、利用者から目を離さないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安静希望の利用者様や体調に考慮しての安静時間を設けています。就寝への影響が出ないような時間での安静をして頂いています。入床前、湯たんぽで寝具を温める支援も適宜行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿った、服薬チェック表の活用。服薬の変更等に付いても口頭で申し送り服薬チェック表の変更を適宜実施し周知徹底を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様からのご要望をくみ取り、塗り絵・新聞置・ゴミ箱作り・折り紙等を提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為駐車場内の散歩や日光浴を天候に合わせて実施しています。	敷地内駐車場は広く、日当たりも良く外気浴には最適な環境である。隣接するオーナーの自家菜園で収穫を手伝い、自然に触れる機会もある。事業所から菜園まで往復することで、程よい散歩となっている。駐車場をカフェテラスとして、昼やおやつを楽しんでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご要望等があった時には、ご家族様へ相談、要望に沿えるよう努めています。コロナ禍の中買い物支援等は行えていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のご予防時にはその都度取次等の支援を行っています。ご家族やお友達からの手紙・はがき等については、一緒に読ませて頂き笑顔の写真をお便りに載せ伝えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示スペースを利用し季節を感じて頂けるよう季節に合わせ掲示物作成・展示しています。	玄関フロアは動線が確保され、整然としている。定期的に生花を飾り、入り口や事務室に吊るされた「かざり雛」が季節感を出している。日中を居間で過ごす利用者が大半で、正月の絵馬や節分のお面を制作するなど、レクリエーション活動で充実した時間を過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士での会話が出来るよう席の配置には配慮しています。日中も居室で過ごしたいとご希望には、夜間時の睡眠に影響のない程度の臥床やテレビ鑑賞をして頂けるようご案内支援を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具や家族写真、入居前の思い出の写真を持って来ていただき、自宅での生活に近い物になるよう、ご家族に協力して頂いています。	1階入居の家族は、窓越しに居室の様子を確認することができる。2階の家族には写真で様子を知らせている。必要な衣類や物品は家族から玄関先で受け取り、職員が収納している。医師の指示がある人や昼寝をする人は、居室でゆっくり過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行移動等が出来るよう、導線になっている部分には物を置かず移動しやすい環境を作っています。		